

令和2年度 施策評価シート

第5次粕屋町総合計画の体系

まちづくりの目標 (施策の大綱)	基本目標2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち			
	4 地域個性を活かした活力ある産業のまちづくり			
施策名	(1) いのちを守り育む食と農の創造			
施策コード	2-4-1	施策構成	2 事務事業	決算額 195,041 (千円)

目標／指標の達成度

基本計画に掲げる目標／指標			単位
①	実感指標	できるだけ地元で採れた食材を利用している町民の割合	%
※	②	客観指標 農産物直販施設の売上高(地域振興課)	千円/年
	③	客観指標 学校給食における地元農産物の使用量(学校給食共同調理場)	kg/年
	④		

アウトカム／成果目標の進行管理

	当初値	28年度末	29年度末	30年度末	元年度末	2年度末	目標値	達成度	変更目標値	変更年度
①	37.3	46.7	45.5	50.0	49.6	—	↗	—		
※	②	145,806	156,219	145,069	126,729	—	150,000	—		
	③	3,040	1,806	9,793	10,966	12,020	6,000	100%		
	④									

※令和元年度に農産物直販施設「なみのり」の管理者が変更になったため、指標の数値が不明です。

施策における総括

前年度までの課題	農区からの工事等の要望に関しては、緊急性を考慮し、優先度の高い事案から行う必要がある。ふれあい農園事業に関しては、住民ニーズを勘案しながら、費用対効果の観点に立った運営を行う必要がある。
今年度の取り組み(成果、効果)	米の需給調整に関しては、加工用米の抛出もなく、水稻作付目標面積を達成することができた。また、農区からの要望に対し、農業施設の修繕及び工事を実施した。ふれあい農園事業に関しては、空き区画の抽選会を行い、利用率の向上に努めた。
次年度以降に改善すべき課題	農区要望に関しては、緊急度を検討し、優先順位をつけて実施することで農地の保全に努める。ふれあい農園に関しては、ニーズは高いものの、管理・運営に係る費用がネックになっているため、経費の削減や使用料の見直し等を検討し、費用対効果を高める必要がある。

総合計画の進行管理

(1) 施策実現への取り組み		(2) 施策実現への進捗状況	
	① 着実に取り組まれており評価できる。		① 計画以上に進んでいる。
○	② 取り組まれているが、まだ改善の余地がある。	○	② 計画どおり順調に進んでいる。
	③ 取り組みが不十分であり対策が必要である。		③ 進んではいるが、スピードが遅い。
	④ 取り組みがなされていない。		④ 進捗が見られない、または後退している。